

青少年むらやま

第41号
2023年
令和5年10月1日

提言



大江町青少年育成町民会議 会長 村松 洋一

新しい価値観や生き方を学ぶ機会を

この度、令和5年度の総会にて富樫前会長の後任として大江町青少年育成町民会議の会長に選任されました村松と申します。会員の皆様及び地域の各関係機関の方々と共に努めてまいりますのでご協力をお願いいたします。

さて、少子化・核家族化・スマホやSNSの急激な普及に伴い、青少年を取りまく社会環境はめまぐるしく変化し、ネット上でのいじめや有害情報の拡散など、青少年の健全育成への影響が懸念されております。さらに、コロナ禍による学校生活への影響が大きく、日常生活において様々な制限が求められたことにより、重要な発達期にある青少年の心身の成長に対する影響は、大変大きいものであると感じています。本町ではこれまで、地域の方々のご協力のもと「あいさつ運動」や「大人が変われば子どもも変わる県民運動」における啓発活動、「青少年ボランティア活動」などを展開してきました。

この度、令和5年度の総会にて富樫前会長の後任として大江町青少年育成町民会議の会長に選任されました村松と申します。会員の皆様及び地域の各関係機関の方々と共に努めてまいりますのでご協力をお願いいたします。

式、水郷大江夏まつり花火大会が実施され、SNSでの情報発信やボランティア等の地域貢献活動の必要性が再認識されると感じています。

特に昨年、町内に明るい話題を提供したいと考え、青少年ボランティア活動において手づくりのイルミネーションを中央公民館に飾りコロナ禍の中、町を盛り上げようと工夫した取り組みをすることができました。ボランティア活動を通して、学校外の活動や人との出会いにより視野が広がるのと同時に、思いやりの心や規範意識を育てるきっかけになると考えられます。これからも多くの人と出会い、たくさんの経験を積むことにより新しい



水郷大江灯ろう流し花火大会後の清掃活動(大江町左沢)



おおえGo!Go!キャンプ野外宿泊体験活動(朝日少年自然の家)

価値観や生き方を学ぶ機会にする夢憧布(ぼけっと)によるボランティア活動を継続してもらいたいと思います。

青少年の健やかな成長を願い、青少年を地域で見守り、育み、支援することの大切さを改めて認識し、青少年健全育成のための諸活動に一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

今後とも県、他市町村と連携し、学校・家庭・地域の協力による「いじめ・非行を許さない・見逃さない」社会づくりに向けて地域づくりの輪を広げていきましょう。

山辺町 山辺町青少年育成町民 会議の活動について

山辺町青少年育成町民会議では、6月の総会の中で、小中高校生向善行者を讃える表彰を行っています。模範的な活動を町民に広く紹介し、青少年を町民みんなで応援する機運を高めようとしています。8月には夜間に夏季地域巡回活動を行っており、非行を誘発するような環境の改善に取り組み、非行未然防止に努めています。また、11月には県民運動の一環として、大勢の町民が集まる「やまのべ・まるごと・フェスティバル」の開催に合わせ、あいさつ・声かけ運動や啓発物品の配布など町内街頭啓発運動を行っています。他にも講演会等を企画し、青少年に関する理解・連携を深める取り組みを行っています。

特に10月から11月に実施している「学校訪問活動」では、青少年育成町民会議の役員が町内全ての小中学校に向き、登校してこる子どもたちに対してあいさつや声かけを行い、登校の見守りをしたのちに、各学校の校長先生と学校の様子や児童生徒の状況、地域と学校が連携してできることなどについて意見交換を行っています。

今後も様々な活動を通して、子ども達を温かく見守り育んでいきたいと考えています。



朝日町 青少年育成事業 「わくわく体験事業」について

朝日町青少年育成町民会議では、7月29日に町内小学生を対象に「わくわく体験教室」を実施しました。本事業は非日常の体験を通して、日ごろ気付かない「自分の感性」に触れる機会を提供することで、これからの日常生活に「新たな目線」を自ら生みだすきっかけづくりをねらいとして実施しているものです。

コロナ禍を経て再開した本事業ですが、昨年度は豪雨の影響により残念ながら中止となりました。今年度の開催にあたっては、定員以上の申込みがあり、子どもたちからの反響があったこと大変嬉しく思います。

当日は青少年育成推進員にご協力いただき、長井市で三淵溪谷ポートツリーングと、古代の丘資料館で縄文土器作り体験を実施しました。推進員の皆さんには、体調面での声かけ、低学年の補助など、子どもたちが楽しめるようサポートいただき、緊張していた子どもたちも次第に笑顔で楽しむ姿がみられました。

終了後、「また参加したい」「今度は別な所へ行ってみたい」という声もあり、次年度も朝日町の子どもたちがわくわくするような体験の場所を提供できるよう企画していきたいと考えています。



東根市 中央区青少年委員との 交流研修会を開催しました

東根市青少年育成市民会議では、青少年育成推進員が「地域活動部」「調査研究部」「啓発広報部」「研修部」の4つの専門部を組織して各種事業の企画・運営を行っておりますが、研修部では推進員の資質向上を目的とした研修会を企画しております。

例年、県内外の施設の視察研修等を行っておりますが、今年度は6月24日～25日に、東根市の友好都市である東京都中央区の青少年委員と、東根市を会場に交流研修会を開催しました。令和元年度に東根市の青少年育成推進員が中央区を訪問しておりますが、中央区の青少年委員が東根市を訪問するのは、新型コロナウイルス等の影響もあり10年振りとなります。24日に行われた意見交換会では、中央区と東根市の青少年関連活動紹介を行いました。ここ数年、コロナ禍により制限があった中で様々な工夫をしながら活動を展開してきた状況について発表し合い、大変有意義な時間となりました。その他、さくらんぼ狩りなどを通してさらに交流を深めたところでした。

今後も青少年育成活動をする上で役立つような研修会を企画していきたいと思っております。



今年度総会を、5月30日(火) 村山総合支庁講堂にて開催しました。会議では、令和4年度事業・収支決算報告及び今年度役員の承認に続き、次の今年度事業計画について協議し承認されました。

● 理事会

令和6年2月下旬、県保健福祉センター(村山保健所) 会議室(予定)

● 推進員部会研修会

9月24日(日) 河北町「サハトベに花」

● いじめ・非行をなくそう やまがた県民運動推進事業
小・中学生による「いじめ防止標語」募集と優秀標語の作者の感想を掲載。「いじめ・非行防止講演会」の実施。「児童・生徒と地域の大人の対話会」の実施

● 県民運動の啓発活動

各校PTA総会時等に実施(リーフレット配付)

● 啓発キャラバン

11月中「子ども・若者育成支援強調月間」を中心に実施

● 一斉活動「有害図書類調査活動」

7月「青少年の非行・被害防止全国強調月間」、7、8月の県民運動重点期間のうちの一日を原則に実施

● 有害図書等調査活動

事務局員が原則として月1回実施

● 一斉活動「あいさつ・見守り運動」

地域(学区)毎、11月「子ども・若者育成支援強調月間」中に一定期間を設定して実施

● 青少年育成運動支援事業

管内市町において青少年健全育成運動に取り組んでいる団体や組織を顕彰

● 機関紙「青少年むらやま」の発行

10月上旬(第41号)、2月下旬(第42号) 発行予定

● 「家庭の日」推進事業

「家庭の日」(毎月第3日曜日)運動の普及・啓発を推進

● 山形県青少年健全育成県民大会の開催

10月29日(日)「新庄市民プラザ」

6月1日に開催された山形県青少年育成県民会議において、総合推進事業として二つの県民運動が決議されました。

いじめ・非行をなくそう

やまがた県民運動

1 県民運動重点期間

7・8月及び11月を重点運動期間と定め、各地区青少年育成連絡協議会の主導のもと、いじめ・非行をなくすための環境づくり、街頭運動、啓発活動など地域の実情に応じた運動を展開する。

2 県民運動の要点

- 小中学校及び特別支援学校の児童生徒対象
いじめの根絶に向けた標語の募集と優秀作の選抜
- 高等学校生徒対象
① 高校生徒会によるスローガン・ポスター等の作成
② 地域の大人と協働したいじめ・非行防止の取り組みの推進
- 地域における運動の展開
① 「児童・生徒と地域の大人の対話会」の開催
② 地域の実情に応じた取り組みの推進
- インターネット利用に関する研修会の開催
- 県内民間企業等と連携した啓発活動

3 山形県青少年健全育成県民大会(10月29日)

- いじめ・非行をなくそう やまがた県民運動の一層の推進を確認するとともに、優秀標語及びポスターデザインの表彰を実施する。
- 青少年育成に取り組む実践者同士が、今後の活動に向けた課題解決に結びつけるための、「いじめ・非行防止セミナー」を開催する。

4 各種広報媒体・グッズによる啓発活動

- 広報誌「見守る目・育む芽」により、県民運動の目的、実施、内容等の周知を図る。
- 広報車やシンボルマークの缶バッジ、啓発マグネットシート、横断幕等の啓発媒体を活用し、地域における普及啓発を一層強化する。

大人が変われば子どもも変わる

やまがた県民運動

1 あいさつ・見守り運動

子どもを家庭・地域で育てよう！

- オアシス(おはよう・ありがとう・しつれいします・すみません)運動を行う。
- コミュニケーションを深める(あいさつ・会話をすすめる、地域行事への参加等)。
- 見守る(表情や態度に気を配る、認める、ほめる、ときに励ます、注意指導する等)。

2 モラル・マナーの向上運動

大人が子どもの手本となるよう！

- ゴミ・空き缶・吸い殻を捨てない・拾う・持ち帰る。
- 交通ルール・マナーを守る。
- 公共の場のマナーを守る。

3 子どもを事故や犯罪等から守る運動

子どもの安全を地域全体で見守ろう！

- 危険個所や少年のたまり場等を点検し、安心・安全な場所に改善する。
- 有害図書等を買わせない、有害広告等を地域から排除する運動を進める。
- 酒類・タバコの未成年への販売禁止の徹底と飲食店での飲酒・喫煙の防止を働きかける。
- 不健全な交友や犯罪に結びつくおそれのあるインターネット上のサイトやソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)、オンラインゲームの安易な利用を注意し、メディア活用ルールの周知を図る。
- 違法薬物に関する正しい知識と、NOと言える勇氣を育むための啓発活動を進める。
- 青少年を深夜(午後11時～午前4時)に外出させない、インターネットカフェやカラオケボックス等に立ち入らせないように働きかける。
- 万引きを「しない・させない・見逃さない」環境づくりを推進する。

所感



尾花沢市青少年育成推進員部会
会長 後藤 吉美

四季の心と自尊感情

人に接する時は 春のような温かい心
仕事をすると時は 夏のような熱い心
物を考える時は 秋のような澄んだ心
己を責める時は 冬のように厳しい心
これは、二十数年前に出会った言葉です。その当時は学校現場において、自分と子ども達との指標として大切にしてきた言葉です。私たちは、「人」や「事」物」そして、「自身」と関わりながら生活しています。そうした中、〇〇する時は、温かい心と熱い心や澄

んだ心、そして、厳しい心など、場や機会に応じて『四季のころ』が大切になってくるようです。今も青少年を取り巻く生活環境は、厳しさを増し多くの問題を抱えています。減らないいじめや不登校・引きこもりなどがあります。また、近年は若年親の幼児虐待や育児放棄・学生の薬物（大麻など）乱用もあり、最も大事な『命』に関わる事件が繰り返し報道されています。各市町では、本連絡協議会の趣旨を受けて青少年の健全育成事業を行っています。『大人が変われば子どもも変わる』、十一年目に入った『いじめ・非行をなくそう』県民運動は、長年にわたり継続され成果をもたらしてきています。そして、各市町では、青少年健全育成を目的に特色ある事業が展開され、本機関紙にも毎年掲載され

ています。尾花沢市も毎月発行される学校だよりや地区公民館だよりなどから児童・生徒の健全育成に向けた取り組みが紹介されています。さらに、今年度からは、福原地区（小・中）にコミュニティ・スクールが発足し、青少年育成推進委員としての目的や活動を振り返る機会となりました。さて、今の子ども達に必要な『ころ』とは何でしょうか。そのひとつに『自尊感情』が含まれます。自尊感情とは、家庭や学校・地域で人や事物とかわり、その体験を通し学びとることから生まれます。その結果、自分は、周りの人から必要とされ愛されていることを実感することができます。そうして、自分自身の存在の素晴らしさに気付くのです。私たち大人は、子どもひとりひとりの自尊感情を高め、多様化する社会で四季のころを育てていきたいものです。

令和5年度
村山地区青少年育成連絡協議会役員体制

- ◆三役
 - 会長 伊藤 康則（山形市）
 - 副会長 菊地 元宏（寒河江市）
 - 副会長 笹原 茂隆（村山市）
- ◆推進員部会
 - 部会長 岡野 守昭（山形市）
 - 副部会長 後藤 吉美（尾花沢市）
 - 副部会長 後藤 洋一（寒河江市）
- ◆監事
 - 武田 紀子（山辺町）
 - 奥山 純二（西川町）
- ◆事務局（子ども家庭支援課）
 - 村上 朋子（課長）
 - 小松 健（課長補佐）
 - 齋藤 芽伊（主事）
 - 黒田 伸幸（青少年専門員）
 - 佐藤 雄一（青少年専門員）

◆市町民会議会長・推進員部会長

- | | |
|------|-------------|
| 山形市 | 伊藤 康則・岡野 守昭 |
| 上山市 | 鏡 好男・山川 和夫 |
| 天童市 | 山本 信治・新関 知己 |
| 山辺町 | 松田 博之・村山 道雄 |
| 中山町 | 齋藤 圭一・多田 英生 |
| 寒河江市 | 菊地 元宏・後藤 洋一 |
| 河北町 | 砂田 哲・林 智 |
| 西川町 | 伊藤 功・和賀 光 |
| 朝日町 | 遠藤 康男・鈴木 高光 |
| 大江町 | 村松 洋一・佐藤 勇一 |
| 村山市 | 笹原 茂隆・藤田 浩司 |
| 東根市 | 元木 行彦・片桐 弘雅 |
| 尾花沢市 | 池田 正義・後藤 吉美 |
| 大石田町 | 五十嵐智志・織江 尚史 |

よろしくお願ひします

編集後記

◆新型コロナウィルスが五類に移行し、ようやく日常を取り戻し、子ども達が力いっぱい活動できる状況になりつつあるものの、異常気象による今年の夏の暑熱対策や様々な犯罪や社会不安などに翻弄される日々が続いています。5月の村山地区青少年育成連絡協議会総会で提案されたように、今年度は青少年の社会に対する考えや意見、未来への希望などを聴く機会を設けることとしました。成果については次号で報告しますが、私たちの活動も今一度子ども達に視点を置いた活動へと充実していく必要を感じています。

◆この度お忙しい中にもかかわらず、「寄稿いただきました大江町青少年育成町民会議会長 村松 洋一様、尾花沢市青少年育成推進員部会会長 後藤 吉美様に、衷心よりお礼申し上げます。また、活動をご紹介いただいた三市町の皆様に感謝申し上げます。